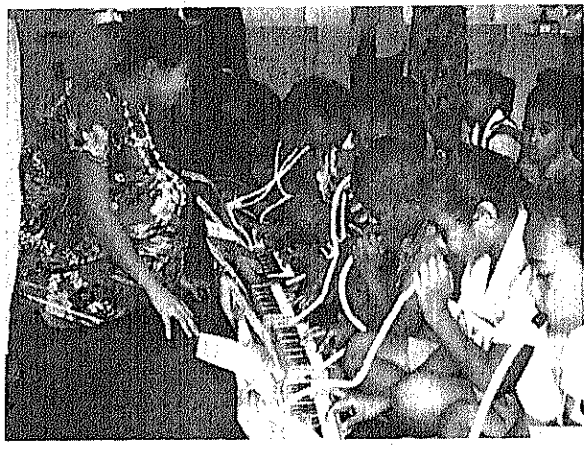
また、この２枚は環境問題・温暖化に直面しているフィジーについて考えてもらうために提示した。オイスカ財団の援助によって行われているマングローブ植林の意義と、波によって海岸が浸食されている様子を、関連付けて考えてもらいたかったからである。とくに、島の古老が海岸浸食を訴えている画像は、研修の授業計画ワークショップでも取り上げていただき、授業づくりのヒントになった。

干潟に植林されたマングローブ

満潮の波打ち際を指し示す島の古老

青年海外協力隊の活動について紹介するため、画像と現地で撮影していただいたインタビュー DVD を視聴したが、これが児童に対して興味深いものだったようだ。日本人が現地の人々のために役に立っているということ以上に、自分も将来こういうことをしてみたいという意欲をかきたてられたようである。また、実際に青年海外協力隊員の言葉で日本を離れてみて幸せや日本の良さを見つけられるという言葉も、心に残ったようだった。



小学校で音楽を教える青年海外協力隊員

高校で農業を教える青年海外協力隊員

〔4〕成果と課題

フィジーは「南太平洋の楽園」という子どもたちのイメージであった。その上に、人々がどのような文化を持ち、生活を送っているか、日本とはどのような関わりがあるのか、日本からの国際協力がどのような形で行われているのかを、短い時間の中で伝えていくことはできたと思う。とくに、セブセブの儀式を通して、フィジーの文化を知る姿勢が高まったこと、環境問題や青年海外協力隊の活動の様子を見て、自分だったらどのような国際協力をしたいか、ということについて積極的に考える態度が生まれたことは、授業の成果として評価できると思う。

ただ、扱える時間が少なかったことと、学年の他学級にまで授業を実施することができなかった。また、モノの豊かさだけが「幸せ」をもたらすのではない、といったことまで深く考える時間が持てなかったのは残念だった。国や文化、人々が違えば、また別の幸せを生きている人たちがいて、そこへ自分たちも関わっていく中で幸せになることを共に考えられるような、そんな授業が今後できれば良いと思う。

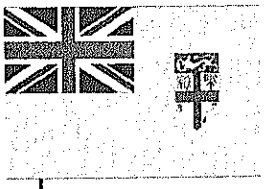
〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

・BS ジャパン『地球紀行・サンゴ礁の楽園フィジー』（2008.7.24. 放送分）
・『きみにもできる国際交流⑬　フィジー・トンガ・サモア』こどもくらぶ編著・偕成社・2001 年刊
・『ぼくの南極生活 500 日―ある新聞カメラマンの南極体験記―』武田剛著・フレーベル館・2006 年刊
・外務省ホームページ　フィジー諸島共和国一般事情
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/data.html>（2008/11/25 アクセス）
・『Pacific Social Science -Book 1 Families in Change-』Rex Bloomfield LONGMAN 1997

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

主な使用スライドについては、詳細説明を参照。

研修の模様・現地の青年海外協力隊員へのインタビューを撮影・編集した羽生教諭（清瀬高校）の DVD を活用させていただいた。



フィジーから知る『世界』

Fiji Islands

岡本 有未
東京都私立明星学園中学校

●担当教科：オーラルコミュニケーション
●実践教科：オーラルコミュニケーション
●時 間 数：9時間
●対象生徒：中学2年生(一部の授業は中学1年生、3年生)
●対象人数：1年131人，2年141人，3年127人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

テーマ：フィジーから知る『世界』 ～日本以外の国に目を向けてみよう～

目的：●ツールとしての言語
●異なる文化、歴史、言語、価値観を知る
●世界の抱える問題と私たちの生活の繋がりへの気付き
●世界で活躍する日本人
●私たちに出来ること、理想の世界とは

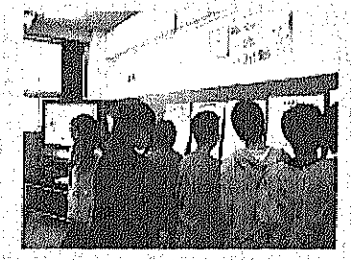
世界には多くの国や民族が存在し、その数だけ異なる文化や歴史、価値観が存在する。自分たちの現在暮らしている生活が決して『当たり前』や世界の『基準』になるものではない事を知り、生徒ひとりひとりが、このグローバル社会に担う責任と役割を理解する。

〔2〕授業の構成

<教科名：オーラルコミュニケーション>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限目 ②世界の国々を知り、入国書類を書いてみよう！ ③世界にはどんな国々が存在するのかを知り、日本の外に目を向けさせる	①3分間で知っている国の名前を挙げる。 ②国連加盟国の192カ国の中からいくつ書けたか、どんな地域や国を知っていて、どんな地域や国を知らないのかを全体で共有する ③入国書類を記入してみる	①ワークシート ②地図
<児童・生徒の反応>	生徒のほとんどが知っていた国は、アメリカ合衆国、オリンピックの影響か中国の2国であった。それ以外に多かったのはオーストラリア、ニュージーランド、中3ではブータン王国であった。残念ながらフィジーを挙げた生徒は1人もいなかった。オーストラリア、ニュージーランドは、希望者が参加できる夏季の行事があり、ブータンは教科書に載っていたことが多くの生徒が名前を挙げた理由であった。生徒により多くの国や知識に触れさせていくことが課題である。一番多く書けていた生徒は、48国であった。入国書類においては、住所が日本語とは逆になること、ミドルネームが何なのかなどの質問が出た。	
①2時限目 ②フィジーを知ろう！ ③入国書類と国旗、紙幣から見える、フィジーの人種、歴史、産業を知る	①1時限目で記入した入国書類の答え合わせ ②入国書類の11番『人種』に焦点を当てる ③何枚かの写真を見ながら、誰がフィジー人か見ていく ④国旗を見ながら、フィジーの『産業』	①写真（参考資料参照） ②フィジーの国旗 ③ワークシート
<児童・生徒の反応>	私が入国審査官になり、誤って記入されている入国書類では入国を拒否しますと伝えると生徒同士相談しながら必死に記入していた。この入国書類はどこの国のものかという質問に対し、フィジーという国が生徒にとって馴染みがなかった為、なかなか出	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	てこなかった。 誰がフィジー人?との問いかけに[6]の４枚目と５枚目を挙げた生徒がほとんどだった。人種が混在することによって挨拶などの工夫がされている事に驚いていた。日本の国旗に比べて多くの情報が隠されていると感じた生徒が多かった。日本の国旗なら車を載せたらよいのでは、などという案が出ていた。	
①3時限目 ②フィジーってどんなところ? ③日本とは全く違う生活をしている人々がいる事を知る	①英語によるリスニング ②答えあわせをしながら、話に出てきた写真を見たり、石鹸や砂糖の匂いを嗅ぎフィジーを五感で感じる ③DVD鑑賞（他の研修参加メンバーが撮影）	①写真（参考資料参照） ②ココナッツの石鹸（現物） ③サトウキビの砂糖（現物） ④ワークシート ⑤PC、TVスクリーン ⑥DVD（青年海外協力隊の活動）
<児童・生徒の反応>	英語のリスニング(中学２年生)に関しては、開発途上国(developing country)など聞きなれない言葉があったため苦戦していた。写真でみるトイレやシャワーについては簡単には受け入れられないらしく、汚いや可哀相といった感想が多かった。そんな中で活動する青年海外協力隊を知り、憧れや心配の声が漏れていた。	
①4時限目 ②世界、日本ではどんなことが起きているの? ③今、この瞬間にどんな事が起きているのかを知り、世界との繋がりを考える	①パワーポイントのスライドを見ながら空欄を埋めていく（リスニング） ②答えあわせをしながら、1秒間に、1分間に、1日に、日本や世界でどんなことが起きているか、それぞれの項目についてディスカッションや意見交換をする ③DVD鑑賞	①PC，TVスクリーン ②ワークシート ③DVD （ユニセフと地球のともだち）
<児童・生徒の反応>	普段英語にあまり興味のない生徒たちが真剣な顔つきでリスニングに取り組んでおり、その後職員室まで話を聞きに来るほどで驚きであった。一部の男子生徒からは、先生、重い・・・と苦しそうな顔つきで言われた。 クラスによって、フィジーでも問題になっている海面上昇であったり、HIV、地雷、政府のお金の使い方など興味がある分野が異なっていた。DVD鑑賞もとても静かにしていた。	
①5、6時限目（インターナショナルウィーク） ②世界がもし100人の村だったら　ワークショップ ③遠い国の出来事ではなく、ワークショップを通じて貧富の差や現状を身近に感じる 	①大陸ごとのポスターに『行ってみたい国』、『行った事がある国』をペンの色を分け付箋に書いて張り出す ②世界の人口を考える - 男性と女性どちらが多い? - 高齢化?若年化? ＊役割カードに従い、移動する ③大陸ごとの人口をみてみよう ④それぞれの言葉で挨拶をしよう ＊面積比でカットしたロープの中に移動し、周りの人とそれぞれの言語で挨拶をする ④識字率を考えよう ＊ネパール語で水、薬、毒と書かれた飲み物を使い寸劇 ⑤世界の富は誰が持っているのか ＊飲み物とビスケットを使い、豊かな層、中間層、貧しい層にそれぞれを分配する ⑥まとめ	①白地図のポスター ②マジックペン、付箋紙 ③ロープ ④飲み物 ⑤透明のカップ ⑥ビスケット ⑦役割カード ⑧新・ワークショップ版　世界がもし100人の村だったら ⑨PC，TVスクリーン
<児童・生徒の反応>	（生徒の感想から抜粋） ●今回、初めてこういう授業をやって楽しかった。特にアジアには、あんなにも沢山の人がいるんだと実際に体験して分かった。挨拶は沢山の国があるから、それぞれの言葉があった。すっごい難しくて長いあいさつの言葉の人もいた。世界って広―い！！そして今回とても考えさせられたのは貧富の差についてだった。 ●あたしは一番貧乏だったから、金持ちの人は１人何枚もクッキーを食べているのに、	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	あたし達は８人で３枚をわけなくちゃいけなくて、あまってるならわけてよ！！って思った。 でも、今私達がいるとこは一番金持ちのとこって言われた時びっくりした。貧しい人の気持ちっていうか立場って考えたことないからこんなに大変なんだと思った。きっと、ごはんとか食べてお腹いっぱいになって残したとしたら、それをみた貧しい人達はあまってるならちょうだいよって思うんだろうな。	
①7時限目 **②世界がもし100人の村だったら　ワークショップ<まとめ>** **③遠い国の出来事ではなく、ワークショップを通じて貧富の差や現状を身近に感じる**	① "If the world were a village of 100 people"（世界がもし100人の村だったら）を読みながら、空欄を埋める ②答え合わせをしながらディスカッション	①ワークシート ②新・ワークショップ版　世界がもし100人の村だったら
<児童・生徒の反応>	富の分配と教育、発言や信仰の自由についての箇所は日本に暮らしていると、当たり前だと感じてしまう為驚いていた。世界で一番話されている言語が英語ではないのに、何で英語を勉強するのか、日本語を話す人たちはそんなに少ないのかと言う感想が出ていた。 （生徒の感想から抜粋） ●ふだん私達は食べ物に困っている人達にあまっているにもかかわらずわけてあげられない（何か労働をしないとあげない）ようなずるい人達だと思った。私だったら困っている人には、手を差し伸べてあげて、お互い協力し合っていきていけたらいいと思った。 ●何か私も助けたい。私達ができることは沢山あるって思った。	
①8、9時限目 **②あなたの考える理想の世界とは** **③平和や思想について考える**	①ジョン・レノンの『イマジン』を聞き、聞こえた単語を紙に書き出す ②ジョン・レノンとアヴィリル・ラヴィーンの『イマジン』を数回ずつ聞き、ワークシートの空欄の箇所を埋めていく ③それぞれが和訳をし、ジョン・レノンの考えた理想の世界を考える ④答え合わせをしながら、それぞれの理想とする世界をディスカッションする ⑤１分間英語で自分の思いを伝える	①ワークシート ②PC ③スピーカー ④CD（ジョン・レノン『イマジン』）
<児童・生徒の反応>	今まで何度も聞いたことはあったが、イマジンの歌詞の意味がこんなだったなんて知らなかったという感想が多かった。生徒から一番反応があったNo possessionsという箇所では、分け合うという意味は理解できるが、自分の物を持たないのは無理だ・・・と言う意見が多く聞かれた。	

〔3〕詳細説明

＊４時限目の授業の際に使ったパワーポイントのスライド＊

１秒間に、１分間に、１日に、日本や世界でどんなことが起きているかに触れた。スライドで写真を見ることで、難しい単語も予想することができ普段英語に興味を示さない生徒も真剣に取り組んでいた。英語という枠を超え、興味を持つ生徒が多かった事も新鮮であった。実際に50分の授業の間では、どうなるかを考えその数の多さに生徒達は驚きを隠せない様子であった。

〔4〕成果と課題

成果：今まで知らなかった国を知り、苛立ちや驚きを感じながらも、自分の暮らす『日本』という国が世界の基準ではない事への気付き、世界との繋がりを感じる事で世界に目を向けるきっかけ作りができたのではないかと感じている。教科書やテレビの中のどこかの誰か、ではなく実体験を伝える事で生徒はより身近に感じることが出来た。

課題：英語という科目の特質上、中学生へ英語を使って教えられる事への限界を感じる事が何度かあった。今後は教科の連携を高め、１つの問題に対して科目ごとに異なる切り口で見ていく事が課題である。生徒の

情報の多くは、メディアや普段の生活から得る事がほとんどであり、偏りのないより幅の広い知識を提供していく事が一教員としての役目だと考える。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

・「新ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら」開発教育協会、2006
・「世界がもし 100 人の村だったら」池田　香代子再話、C．ダグラス・ラミス、マガジンハウス、2001
・「世界がもし 100 人の村だったら 2　100 人の村の現状報告」池田　香代子、C．ダグラス・ラミス、マガジンハウス、2002
・「世界がもし 100 人の村だったら 3　たべもの編」池田　香代子、C．ダグラス・ラミス、マガジンハウス、2004
・「世界がもし 100 人の村だったら 4　子ども編」池田　香代子、C．ダグラス・ラミス、マガジンハウス、2006
・「1 秒の世界」山本良一編集、ダイヤモンド社、2003
・外務省：キッズ外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/world/>
・日本ユニセフ協会 <http://www.unicef.or.jp/>
・UNFPA 国連人口基金東京事務所 <http://www.unfpa.or.jp/>
・WFP 国連世界食糧計画　<http://www.wfp.or.jp/>
・世界地図　SEKAICHIZU <http://www.sekaichizu.jp/>
・ビデオ　「unicef ユニセフと地球のともだち」

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

写真１　ロマワイ村のキッチン

写真２　バケツシャワー

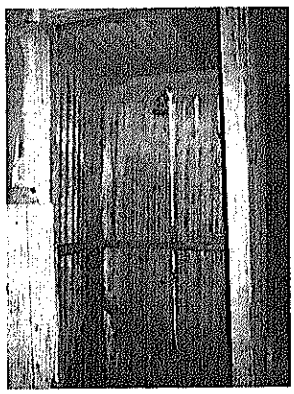


写真３、４　ロマワイ村のシャワー

３時限目　フィジーってどんなところ？（リスニング使用写真）

写真１

写真２

写真３

Immigration

Please complete in capital letters and tick ☑ where appropriate.

IV7	Y 628257

A separate arrival card completed for each passenger including children

1. Surname/Family Name:
2. Given Names:
3. Permanent Address:

   Town: State/Province:

   Post/Zip Code: Country:
4. Country of Citizenship:
5. Passport No.
6. Date of Birth: DAY MONTH YEAR
7. Sex: M ☐ F ☐
8. Occupation:
9. Address while in the Fiji Islands (if different from 3 above)
10. Reasons for visit (if returning resident, reason for trip) Tick ☑ one only

    1. ☐ Business 2. ☐ Convention/Conference
    3. ☐ Holiday (Hotel/Resort/Dormitory)
    4. ☐ Visiting Friends/Relatives
    5. ☐ Education/Training 6. ☐ Transit
    7. ☐ Investment
    8. ☐ Other (Specify)
11. Ethnic Group (Residents of the Fiji Islands only) Tick ☑ one only.

    1. ☐ Fijian 2. ☐ Indian 3. ☐ European
    4. ☐ Chinese 5. ☐ Rotuman
    6. ☐ Other Pacific Islander
    7. ☐ Part European 8. ☐ Other (specify)
12. Flight Number/Ship
13. Where did you board
14. Expected date of leaving the Fiji Islands (Visitors Only)
15. Have you visited any of the following countries in the last 10 days? (Central Africa/Central America/South East Asia, Papua New Guinea, Vanuatu, Solomon Islands) YES ☐ NO ☐

    I declare that the above particulars are true and correct.

    Signature Date / /

DO NOT DETACH

Surname/Family and Initials

１、２時限目の授業
入国書類と使用写真
どの人がフィジー人？
１１番　Ethic Group 参照

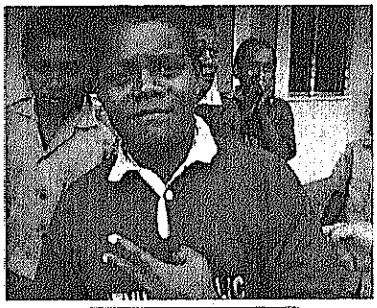


写真４

写真５

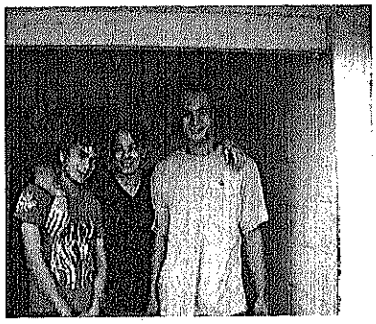
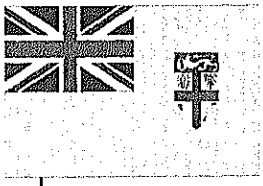


写真６



～英語を通して考える～ フィジーの環境問題と私たち

Fiji Islands

藤村 由夏
東京都立国際高等学校

●担当教科：英語
●実践教科：英語
●時 間 数：7時間
●対象生徒：高校2年生
●対象人数：51人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

英語科担当として、生徒たちはともすると英語を学ぶことが「目的」となってしまい、英語を「手段」として使うことが忘れがちになっているのではないかと感じることがあった。今回対象とした高校2年生の生徒たちは4年以上英語を学んできた訳であり、彼らに英語を使って異文化を理解する喜びを知ってもらうべく、授業実践では「英語」と「環境」をテーマに、以下のことを目的として取り組んだ。なお、主要な部分は英語で授業を行い、提出物は英語、また授業中生徒にも英語で話すよう指導した。

○フィジーがどのような国であるか、どのような文化をもっているか、英語で学ぶ。
○現地の高校生たちと英語を通してふれあい、自分たちと同じ点、違う点を知る。
○英語を使ってフィジーという異文化を知る喜びを感じることを通じて、今まで英語を学習してきてよかったという気持ちを得る。
○今回の海外研修のテーマである環境問題について、自分たちで調べ、自分たちの問題として考え、英語で500語程度のエッセイを書き、またその内容について発表する力をつける。

〔2〕授業の構成

<教科名：英語（英語表現）>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時間目（事前学習） ②自己紹介 ③英語で自己表現する。 相手に対する質問を考える。	JICA教師海外研修でフィジーに行くことを告げ、現地の高校生宛に自分の好きなこと嫌いなこと、将来の夢を書いてもらう。また質問があったら書くよう指導した。	ワークシート（自己紹介 etc.）
<児童・生徒の反応>	○なぜフィジー？ ○フィジーの人と英語でコミュニケーションがとれるのはうれしい。 ○同じような歳の人が何を考えているのか知りたい。	
①2時間目 ②フィジーの基本的情報 ③藤村が研修で集めた資料からフィジーがどんな国か学び取ろうとする。	・フィジーの伝統衣装ブラシャツを着て、地図やポスター等を見せ、雰囲気をつくりながら授業をすすめる。 ・入国カードのコピーに英語で自分の情報を書き入れながら、フィジーの民族構成その他気が付いたことを発表させる。 ・地図やインターネット、参考文献からのフィジー基本情報を自分の体験を織り交ぜながら伝える。	・フィジー入国カードのコピー ・フィジーの地図、データ、現地で撮った写真 ・BGM（イサレイなどフィジーの曲） ・パーソナルシート①
<児童・生徒の反応>	○フィジーにインド人が半分近くいるというのは驚いた。 ○民族が多く、多民族国家ということがわかった。 ○知らない単語が多く苦労した。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①3時間目 ②フィジーの暮らし ③フィジーの物価や文化、特に衣食文化について学ぶ。	・フィジーの人々の暮らしぶりを伝える。現地で買った物のレシートをコピーし、グループに分け、レシートにある内容を読み取り、発表させる。 ・購買した実物を見せ、それらのものからまたフィジーの文化についての話をすすめる。	・現地の社会科の教科書 ・現地で集めた買い物のレシートのコピー ・ワークシート（レシートの内容に関する質問集） ・実際に買った品物 ・パーソナルシート①
<児童・生徒の反応>	○8月に冬のバーゲンをやっているとわかった。 ○フィジーの伝統的な器を初めて見た。 ○物価は日本より安い。特に民族的なものは安い。 ○付加価値税というものがあるのを知った。	
①4時間目 ②フィジーの高校生と自分たち ③同じ年代のフィジーの生徒たちと同じ点、違う点を知り、考える。	・夏休み前に書いたフィジーの高校生に対する自己紹介と質問への返事を渡し、内容を読み取り、相手からの質問に答える。相手の将来の夢についてコメントを書かせる。 ・フィジーの高校生と自分たちの似ている点違う点について300語程度のエッセイを書かせる(宿題)	・現地の高校生からの自己紹介、質問への返事、こちらへの質問等が書かれたシート ・相手の質問に答えるためのシート ・パーソナルシート① ・英文エッセイ用シート
<児童・生徒の反応>	○フィジーの生徒は日本に興味を持っている人が多い。 ○フィジーの高校生の方が夢の種類が多かった。 ○大体同じようだったが、都市と島に住んでいる違いがあるようだった。	
①5時間目 ②フィジーの環境問題。 ③サンゴや森林の大切さを知り、現地の取り組みを学ぶ。	・サンゴと森の大切さをクイズに答えながら考えさせる。 ・現地での環境問題をいくつか伝える。 ・環境保護に取り組むNGOオイスカ（OISCA）やJICAの活動とそこで活躍している日本人の様子を伝える。	・OISCAのパンフレット ・OISCAのホームページよりフィジーの記事 ・現地で撮った写真 ・パーソナルシート②
<児童・生徒の反応>	○サンゴや森の大切さがわかった。 ○フィジーにまで地球温暖化の影響が現れていると知った。 ○日本人の活躍がうれしかった。	
①6時間目 ②エコツーリズム ③エコツーリズムについて、英語の文章を読み、フィジーのエコツーリズムについて学ぶ。	・エコツーリズムについて知っていることをお互い出しあい、知識確認。 ・フィジーのエコツーリズムについて藤村が体験したこと、感じたことを伝える。 ・フィジー政府発行の"FIJI TODAY 2006/2007"という本のツーリズムの項からエコツーリズムについての英文（約500語）を読み、それを日本語または英語で要約させる。（宿題）	・現地でのエコツーリズム研修で入手したパンフレット(アンバサ村、ロビンソンクルーソー島) ・"FIJI TODAY 2006/2007"のコピー ・現地で撮った写真 ・パーソナルシート② ・英文/日本文エッセイ用シート
<児童・生徒の反応>	○エコツーリズムという言葉は聞いたことがあるが、内容は今回初めて知った。 ○日本でもエコツーリズムの法律ができたとは知らなかった。 ○ロビンソンクルーソー島は経営者が外国人（オーストラリア人）なので、いつか現地の人が経営するともっといいと思う。 ○エコツーリズムに現地の人との交流も含まれるのは面白そう。	
①冬休みの宿題 ②理想のエコツーリズムを考えよう ③自分で調べ、考え、理想のエコツーリズムの施設、またはツアーを考える。	・冬休み中、自分で文献またはインターネットでフィジーのこと、エコツーリズムのことを調べ、考え、自分が現地の経営者と仮定して、どのような施設、ツアーが良いか、ターゲット、費用、内容、良いと思う理由などを500語程度の英文にまとめさせる。 ・また冬休み後に発表させるため、英語のレジュメも書かせる。（A4　1枚）	・英文エッセイ用シート ・A4ブランク用紙（レジュメ用）
<児童・生徒の反応>	冬休み明けの予定。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①7時間目 ②エコツーリズム ③理想のエコツーリズムについて、自分のアイデアを英語で発表し、質疑応答に答える。アイデアを皆で共有する。	・冬休みの宿題「フィジーでの理想のエコツーリズム」について英語で発表させる。 ・司会も生徒の中から選ぶ。 ・発表者はもとより、発表者以外の生徒にも積極的に授業に参加し、質問をするよう励ます。	・レジュメのコピー ・コメント用紙
<児童・生徒の反応>	冬休み明けの予定。	

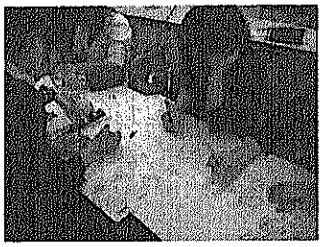
〔3〕詳細説明

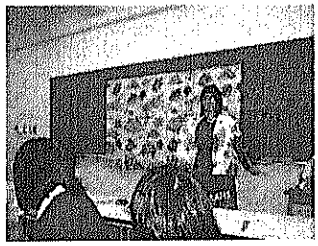
【3時間目】

この時間は現地で実際買ったものを、伝統衣装のブラシャツやスル（腰巻）など一部は身につけ、他のものは袋に隠し、登場。フィジーの通貨であるフィジードルのお札をみせながら、レシート５枚のコピーを配り、グループに分けそれぞれのグループが１つのレシートについて５分ほどでワークシートの質問に答えながら解読し、その後発表。実物を袋から出して私が解説を加えた。購入したものに現地でヤンゴナの根を粉にして飲むカバという飲み物に使う器があったのでそれからフィジーに根付くカバの文化を写真や体験から紹介した。

英語に関して言えば、レシートは現地の経済の情報の宝庫であり、様々な語彙、短縮形（abbreviation）などにふれることができた。日本の消費税に似た付加価値税があること、ブラシャツは男性の正装になること、８月が南半球のフィジーでは冬で、ウィンターバーゲンのシーズンであること、お土産品は日本と変わらない値段だが、服などは安いと思った生徒が多かった。

授業風景





【4 時間目】

夏休み前、本校生徒 51 人に①自己紹介②自分の好きなもの嫌いなもの③将来の夢④フィジーの高校生に対する質問の４項目について書かせ、ナンディのボツワレブ高校訪問の際、そのシートを渡した。現地の高校生にも同じ項目について書いてもらうことをお願いし、日本に持ち帰ることができた。

生徒たちの期待は大きく、夏休み明け、私の顔を見るや否やフィジーの生徒から返事をもらえたか何人もの生徒に問われた。授業では、生徒１人１人に返事を渡すのと同時に、フィジー、日本それぞれの内容をまとめたものを配布し、自分たちと同じところ、違うところを読み取り、英文エッセイを書くよう指導した。

生徒の提出例　２年Ａ組の女子生徒

When you compare Fijian students' favorite things to Japanese, you can see the number of things they love is larger than ours. I think this result shows that Fijian students are more satisfied with their everyday lives or Japanese students are less aware of their happiness of their lives. But you can also see that both students have interest in different cultures or people who have different cultures. Being interested in different cultures is not rare in

Kokusai High school, but how about Votualevu College, which is a high school specialized in science and house keeping? I think Fijian students are interested in many cultures because there are many people who have different life styles in Fiji. They have many opportunities of touching other cultures than we have in Japan.

Also, when you take a look at the things Fijian students hate, you will realize there are many students refered to some personalities. This may show that they cares more about people' s personalities than their looks.

And Kokusai students dream about getting job which need abilities of speaking English. They want to be involved in some international works. On the other hand, Fijian students' future dreams are various. But many of them want to go to Japan or some other countries such as India, England, U.S.A. and so on. In short, both students long for foreign countries. I think this might be because of both Fiji and Japan are countries which are surrounded by ocean and separated from continents.

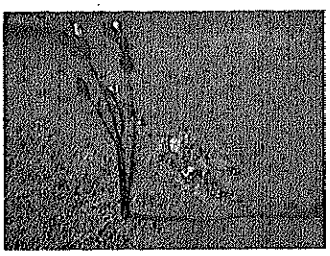
I was surprised and pleased because I could find many similar points between Fijian students and us. I came to feel closer to them after this study.

【5 時間目】

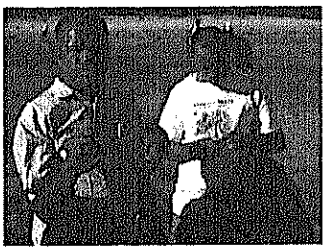
環境問題については近年関心が高まっているので、生徒は地球温暖化やその原因については良く知っていたが、さんごや海の植物性プランクトンの役割についてはあまりよく知らなかったようだ。さんごや森林の大切さを学んだ後、なぜそれらを保護する必要にせまられているのか、どのような保護活動が実際 Fiji で行われているのか、現地で活躍している OISCA や JICA 関係の人々の活動の様子を伝え、写真を使って考えさせた。

授業で使った写真

マングローブ植林



植えられた幼木



さんご植林について説明するスタッフ

〔4〕成果と課題

①時間の確保

本校は国際学科の学校であり、外国のことや外国語を学ぶことに興味のある生徒が多く在籍する。また帰国生や外国人の割合も比較的高い。そのような環境の中ではあるが、年間のカリキュラムやシラバスが年度当初にはっきり決まるので、これはどこの学校でも同じであると思うが、その後の変更がかなり難しい。今年度私は 2 年の英語表現（英作文）を中心とした授業を含め 5 種類の違った科目を担当しているので、まずどこで授業を実践するのが一番よいか、かなり悩んだ。英作文は週 2 時間のうち 1 時間はティームティーチングなので、そこでフィジーの授業はできない。そうすると週 1 時間となるので、9 月すぐの授業から授業実践を始めた。教科書も予定通りこなさなければいけないので、宿題も多くなり、生徒には大変だったと思うが、よくついて来た。本校にある異文化理解という授業（3 年生で週 2 単位）にも講演者として出たかったが、今年はスケジュールが決まっていて無理だったので、来年度チャレンジしたい。

②科目との整合性

担当教科が英語であり、フィジー関係の授業をすべて英語で行うようにした。本校では英語理解の授業は主に英語で授業を行っているが、今年は英作文担当であり、文法説明や和文英訳の際、主に日本語で行ってきた。英作文の授業でありながら、英文の資料を読んだり、ディスカッションや発表をしたり、かなり英語理解の授業に近いものになってしまった。ただ、まとまった英作文を２本入れることができ、生徒たちの英語での表現力の向上に役立ったと思う。

③自分たちで調べ、書き、発表すること

日々の授業を通して「英語を手段として何かをする」ことに重点を置いて生徒と接してきたが、フィジーを材料に環境問題など色々と「料理」することが出来た。生徒は高校生なので、ただ教えてもらうだけではなく、一連の授業を通し、フィジーを身近に感じ、英語を使ってコミュニケーションをしたり自己表現をする楽しさを味わってもらえたようだ。

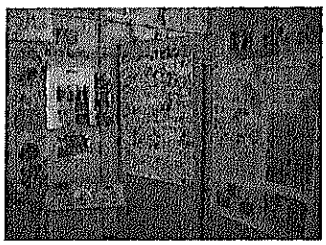
フィジーはたまたま英語を公用語とする国であり、英語の授業で取り上げることが出来たが、そうでない国がもし研修国であったら何ができたか、考えることがある。

④文化祭での成果

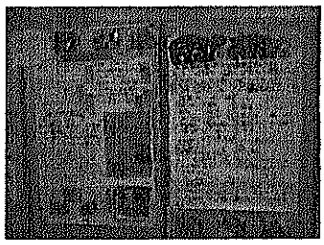
９月に本校で行われた文化祭では、顧問をしている国際協力ボランティア同好会の展示の一部として生徒たちと協力してフィジーのコーナーを作った。フィジークイズ、エコツーリズムについて、フィジーと日本の高校生の比較などを展示した。同好会の活動を通じて知り合ったフィジー大使館の方たちからの協力も得られ、楽しい展示ができた。

文化祭「国際協力ボランティア同好会」の写真

入り口の展示



フィジーの展示



フィジーの展示

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

『フィジー南の島の物語』 戸井十月著、小学館、１９９５

『総合的な学習　こう展開する　国際理解教育［地球学習］』 清水書院、１９９９

『エコツーリズム推進法の解説』 ぎょうせい、２００８

『自然との調和を目指して～やってみよう！環境教育～』JICA 地球環境部、２００８

Social Science Class8/Form② Ministry of Education, Fiji 1998

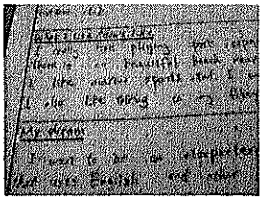
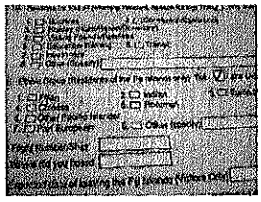
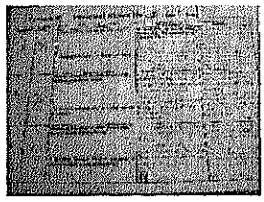
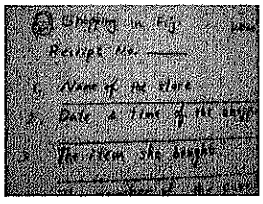
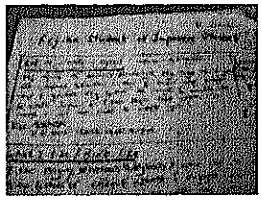
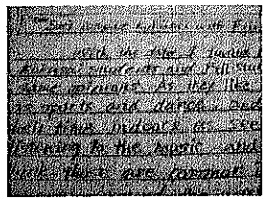
Ravuvu, Asesela. The Fijian Way of Life. Univ. of the South Pacific, 2005

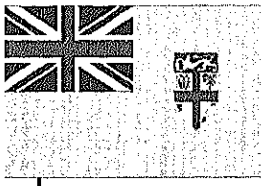
フィジー政府観光局ホームページ　＜http://bulafiji-jp.com＞

オイスカホームページ　＜http://www.oisca.org/＞

ロビンソンクルーソー島ホームページ　＜http://www.robinsoncrusoeislandfiji.com/＞

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

		
＊1　本校の生徒からのメッセージ	＊2　フィジー入国カード	＊3　パーソナルシート
		
＊4　レシートを使った活動のワークシート	＊5　フィジーの高校生からのメッセージ	＊6　フィジー日本比較の英文エッセイ



世界に目を向け、自分たちにできる国際協力

Fiji Islands

寺田 礼子
東京都板橋区立桜川中学校

●担当教科：英語
●実践教科：英語・総合的な学習
●時 間 数：3時間×4クラス
●対象生徒：中学2年生
●対象人数：137人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「私たちにできる国際協力とは何か」

・世界に目を向け、日本と違う文化を持つ人々の暮らし方・考え方に関心を持つ。
・教育を受けることにテーマを絞り、そのための国際協力の在り方を考える。
・国際協力のために自分にできることを考える。

〔2〕授業の構成

<教科名：英語・総合的な学習>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限目（英語） ②フィジーを知る ③フィジーという国について興味を持たせる	①知っている国は？ 3分間で知っている国をできるだけたくさん書く。どの地域が多いか考える。 ②世界で話されている言葉は？ 世界で多くの人が話している言語を予想し、その理由を考える。 ③フィジー○×クイズ フィジーについての○×クイズをする。そのあと地図・教科書・写真・ビデオなどを見せながら紹介する。	ワークシート No.1 ワークシート No.2 資料（校則・フィジーの生活の写真） フィジーの地図 フィジーのお金 フィジーの教科書 研修で撮影した写真・ビデオ
<児童・生徒の反応>	・3分間必死になって国名を書いていた。一番多い生徒は48カ国書いた。知っている国は欧米、東アジア（日本周辺）、サッカーなど興味のあるスポーツの強いところなどに限られている。 ・日本語を話す人口がヒンディー語を話す人口より少ないと知って「日本語はマイナーな言葉だ」と驚く。使用者が多い理由は人口の多さだけでなく学校教育での習得などの意見も出た。 ・フィジーを知っている生徒はほとんどなく、まずどこにあるのかから説明した。教科書でもインドについて学んでいたので、イギリスがフィジーにインド人を移住させた話に植民地支配の重さを感じた。フィジー語やヒンディー語の教科書、セブセブやスル、校則なども興味を示した。写真・ビデオなど視覚教材は興味深く見ていた。	
①2時限目（総合的な学習） ②国際協力について考える ③ケーススタディーを通して自分たちにできる国際協力を考える	①自分にとって一番大切なものを考える。フィジーの子供たちの多くが答えた「一番大切なものは『教育』」という言葉の意味を考える。教育を受けることが将来どう役立つか意見を出す。 ②ケーススタディー ・ワークシートの資料を読む。 山村の女の子アリエッタと、スクウォッター（不法居住地域）の男の子ロッコという2つのケースを用意した。 ・クラスを5つの生活班に分ける。班ごとに資料用の写真を配り、「アリエッタ」「ロッコ」のどちらかを選ばせる。	ワークシート No.3 ワークシート No.4 写真資料1，2　　貼付3

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	・学校に行かれない原因、何があれば行かれるようになるかを個人で考えてワークシートに記入する。	
<児童・生徒の反応>	①生徒にとって一番大切なものは「家族」「友達」「健康」などという答えが多かった。「勉強・教育」という答えは出なかった。フィジーには義務教育は無く初等教育は無料であるが中等教育を受けるにはお金がかかること、小学校には99%の子供が通うがその半分しか中等教育を受けられないことを伝えると、フィジーの子供たちの「教育が大切」という答えに納得していた。教育を受けることが夢につながるフィジーと、教育を受けても夢を描けない今の日本とどちらが幸福なのかと疑問を持つ。 ② 写真を入れた資料だったためか、どちらのケースを選ぶか真剣に話し合っていた。個人段階で書く「学校に行かれない理由」「行かれるようになるためには何があればいいか」は、いろいろ細かく書いている生徒もいれば、なかなか書けない生徒もいた。自分たちにできる国際協力は「募金」という答えが圧倒的に多い。	
①3時限目（総合的な学習） ②国際協力について考えたことを発表する ③ケーススタディーを通して国際協力について考えたことを話し合い、発表する。	・班で役割分担をする。 ・みんなの意見を班の中で発表し、まとめる。 ・まとめたものを模造紙にわかりやすく書く。 ・前に出て模造紙を黒板に張り、自分たちの考えたことを発表する。 ・どのような国際協力があるのか、青年海外協力隊やNGOのオイスカ(OISCA)の活動、エコツーリズムなども交えて紹介する。募金以外にできることを考える。	模造紙 マジック マグネット 写真
<児童・生徒の反応>	・班の中で活発に意見を交わしていた。班によっては意見がなかなか出ず、ヒントを与えるなどサポートの必要なところもあった。 ・発表はお互いによく聞いていた。現地の人がずっとお金を生み出していくための良いアイディアもあった（実際はもうすでに行われているものもあったが）。 ・青年海外協力隊員の活動、OISCAの活動などを通して外国で国際協力のために活躍している日本人がいること、募金以外に自分の得意なことや職業で身につけたことを国際協力に活かせることを知り、興味を持った。	

〔3〕詳細説明

1時限目　（英語）

①「日本語・中国語・英語・ロシア語・フランス語・アラビア語・ヒンディー語・スペイン語」の8言語の中で話している人の多い順位を予想させた。世界から使用言語の割合に従って50人集めたら、日本語を話す人は何人いるか考えた。使用者が多い理由は、人口が多い国の言語という答えはすぐ出たが、スペイン語やフランス語が植民地政策によって世界に広がった歴史的背景には気付かなかった。南米やアフリカを知らないためでもある。英語はコンピューターの普及に伴い使用者が増えていること、国連の6つの公用語に日本語が入っていないことにも触れ、世界とコミュニケーションを取るには世界で広く通用する言語を身につける必要があることを伝えた。

②フィジークイズではフィジーで撮った写真・ビデオ、フィジーで買ったフィジー語・ヒンディー語・英語の教科書や地図、フィジーのコインなどを見せながら答え合わせをした。セブセブ(儀式)やスル(腰巻）の着用に興味を示し、校則で坊主頭は禁止、英語しか使えないことや違反の場合の罰則など日本より厳しいと驚いていた。

2時限目・3時限目　（総合的な学習）

国際協力のケーススタディーとして、フィジーの山村に住む14歳の女の子アリエッタ（ロマワイ村とアンバザがモデル）と都市部のスクウォッター(不法居住地域)に住む14歳の男の子ロッコ(スバのスクウォッターがモデル）の2パターンを用意した。両方とも貧困のため中等教育を受けられない。どうして教育が必

要なのか考えさせたうえで、その村・地区に何があれば人々が持続的にお金を生み出し子供たちに教育を受けさせることができるかを考えさせた。「募金」以外の答えを考えるよう指示した。資料の写真にはいくつかヒントを加え、奇抜なアイディアでも良いということにして相談させた。1班6～7名なので、アイディアをまとめる人2名、模造紙に書く人2名、発表する人2～3名に役割分担し、発表させた。

発表の後で青年海外協力隊やOISCAの活動なども紹介して、募金以外にも直接協力する方法もあること、いろいろな形の国際協力があり募金するならどういう活動を支援したいかを考えてほしいと伝えてまとめた。

★生徒のアイディアより

アリエッタ・プロジェクト ・果物やココナッツを栽培する技術を教え、町に果物工場を作って出荷すると町でも村でも働ける。 ・橋を作りスクールバスを走らせる ・薬草を研究し何かの病気の特効薬を見つけて世界に売る。 ・村人たちが町に家を1つ借りて子供たちの寮にして学校に通わせる 食事や掃除も村人たちで ・日本人がボランティアで村に教えに行く

ロッコ・プロジェクト ・スクウォッターの大人たちで何でも会社を作り働く ・ゴミからリサイクル品を作って売る ・スクウォッター内に学校を建て教師に来てもらい労働で返す

〔4〕成果と課題

フィジーで私が学び考えたことを生徒に伝えたいと思い、「自分たちにできる国際協力」について考え話し合う時間を作った。自分が使わなくなった鍵盤ハーモニカを必要な国に送ることも協力であること、電気や水を無駄使いしないことも地球環境を守る協力であることなど、国際協力というと募金しか思い浮かばなかった生徒の視野を広げるきっかけができたと思う。ケーススタディーは活発に意見を出している生徒が多いが、生徒の興味や取り組みは個人差が大きい。国際協力について考える時間や、討論の仕方を学ぶ機会を普段から作っていく必要を感じる。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

・『平成19年度教師海外研修実践報告書集』JICA地球ひろば、2008
・『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』開発教育協会、2006
・『開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる』開発教育協会、2006
・世界地図の白地図（ミラー図法）【著作権フリー素材】
<http://www.freemap.jp/world/ga_worldmap_5.html> （2009/1/5アクセス）
・Fiji Island Bureau of statistics - School Enrolment by ethnicity and sex
<http://www.statsfiji.gov.fj/Key % 20Stats/Population/2.23 % 20School % 20Enrolment.pdf>
（2009/1/5アクセス）
・文科省 中央教育審議会初等中等教育分科会 世界の母語人口・世界の使用言語人口
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/06020613/001/001.pdf> （2009/1/5アクセス）

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

貼付１　ワークシートNo.1より

1. 知っている国を３分間でできるだけ多く書いてみよう。

1	21	41
2	22	42

2．その国はどこにあるのか、次の地域で分けて個数を記入しよう。

A　アジア（　　）　B　アフリカ（　　）　C　北アメリカ（　　）

D　南アメリカ（　　）　E　ヨーロッパ（　　）　F　オセアニア（　　）

3．フィジー○×クイズ

1）フィジーはアフリカにある。（　　）

2）フィジーには王様がいる。（　　）

3）フィジーには島が330個ある。（　　）

4）フィジーの面積は四国とほぼ同じである。（　　）

5）フィジーの公用語はフィジー語である。（　　）

6）フィジーの人口の約40%は中国系である。（　　）

7）フィジーでは小学校1年から英語を習う。（　　）

8）フィジーは小学校から制服がある。（　　）

9）フィジー人の男子の制服は巻きスカートである。（　　）

10）フィジーでは歓迎の儀式でお酒を飲む。（　　）

11）フィジーでは女性と子供は男性の後に食事をする。（　　）

12）フィジーのおもな産業は観光業と農業である。（　　）

13）フィジーでは北斗七星が見える。（　　）

14）フィジーの主食はタロイモと米である。（　　）

15）フィジーで人気のあるスポーツはサッカーである。（　　）

16）フィジーで怖いのは毒蛇である。（　　）

添付２　ワークシートNo.2 No.3より抜粋（ケーススタディ）

★「アリエッタを学校に行かせよう」プロジェクト

アリエッタはフィジーの山奥の村に住む１４歳の女の子。家族は両親と12歳と９歳の弟２人、６歳の妹、姉の子供（赤ちゃん）です。父親は川で魚を釣り、大きな町に行って売っています。母親は畑で野菜を作って町の市場で売っています。姉（18歳）は町のレストランで働き、時々村に戻ってきます。アリエッタは隣村にある小学校には８年間通ったのですが、中学校は歩いて４時間かかる町にあります。町の中学校には寄宿舎（寮）がありますが、お金がかかるのであきらめて、今は弟たちの世話をするため家にいます。今のままだと食べていくだけの生活はできますが、余分のお金はなく中学校には行かれません。中学校ではパソコンや職業訓練などの科目もあって、職業選択

の幅が広がるのに。

この村には80人ほどの人が住んでいます。電気は通っていません。水は川に汲みに行きます。食料は畑で作り自給自足しています。トイレは共同で使い、炊事場も共同で使っています。車はこの村の村長さんのほか3人くらいしか持っていません。山奥のためバスは通れませんが、馬を交通手段として使っています。雨期になると町に行く途中にある川が増水するので車は使えなくなります。周りは自然にめぐまれ、きれいな山、滝、川があります。山ではバナナやマンゴーなどの果物やココナッツが自生し、川には魚がたくさんいます。

アリエッタを町の中学校に通わせるにはどうしたらいいでしょう。

★「ロッコを学校に行かせよう」プロジェクト

ロッコはフィジーの都市部のスクウォッターに住む14歳の男の子。（スクウォッターとは川縁など自分の土地でないところに勝手に小屋を建てて住んでいる不法居住区。）家族は両親と11歳と9歳の弟2人、6歳の妹です。父親は定職が無く、町で仕事を探してはその日のお金を稼いでいます。母親は家の前の小さな畑で野菜を作って町の市場で売っています。ロッコは町の小学校には8年間通ったのですが、中学校はお金がかかるのであきらめて、今は父親を手伝って頼まれた力仕事をしています。今のままだと食べていくのにぎりぎりの生活はできますが、余分のお金はなく中学校には行かれません。また、収入も不安定です。中学校ではパソコンや職業訓練などの科目もあって、職業選択の幅が広がるのに。

このスクウォッターには200人ほどの人が住んでいます。多くは都市部に仕事を求めて集まってきた人たちです。川辺は雨季になると洪水の危険があるため土地の所有者がなく、地主にお金を支払う必要がありません。家は廃材などを拾ってきて家族や住人たちと協力して建てています。地区全体に電気は通っていませんが、自分たちで共同の電線を引き人数分の料金を払います。水も自分たちで水道を通し人数に応じて料金を払います。下水道とごみ収集は税金を払っていないので、ありません。下水はあふれて雨季にはあちこちに水溜りができ、ゴミは山のように積み上げられています。このままではいずれ伝染病が発生する可能性があります。

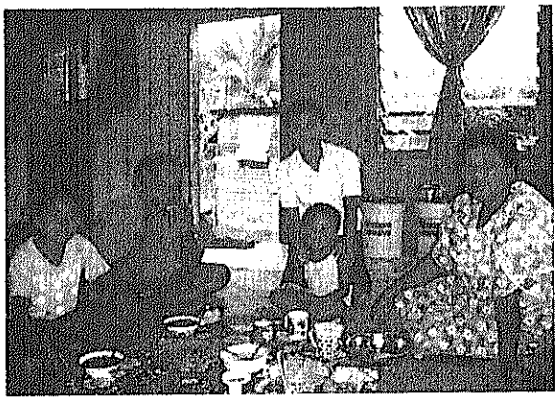
ロッコを中学校に通わせるにはどうしたらいいでしょう。

① 中学校に行かれない原因は何か？（どこを改善すれば学校に行かれるようになるか）2つ書く。

②中学校に行かれるようにするには、この村／スクウォッターに何が必要か？（一人最低2つアイディアを出す。）募金以外の「お金を生み出す」方法を考えてください。

③みんなと話し合って出てきたアイディアをまとめ、この班の「アリエッタ／ロッコを学校に行かせようプロジェクト」を発表しよう。（かなり変わったアイディアがあってもOK）

貼付３　写真資料１・２より



アリエッタ　⑤朝食の写真

ロッコ　④ゴミの山の写真

アリエッタ・フィジー人の村の写真

① 橋の上で釣り
② 共同トイレ・シャワー
③ 居間（２間でキッチンなし）
④ 道路わきの店
⑤ 朝食
⑥ご馳走（ロボ料理）

ロッコ・スクウォッターの写真

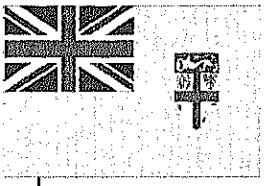
①トタンの家
②家の中
③下水道なし
④ゴミの山

フィジーの村で利用できるもの

・村人のつながり
・豊かな自然（植物・薬草・水）
・食料（川魚・野菜・タロイモ・ココナッツ・南国の果物）
・美しい景色、山

スクウォッターで利用できるもの

・人手
・電気配線技術（初歩）
・水道工事技術（初歩）
・建築技術（初歩）
・隠れた情報（安いものの入手先）



フィジーを知ろう！日本を知ろう！

Fiji Islands

朽木 裕子
東京都八王子市立別所小学校

●担当教科：全教科
●実践教科：総合的な学習の時間
●時 間 数：13時間
●対象生徒：小学校6年生
●対象人数：31名

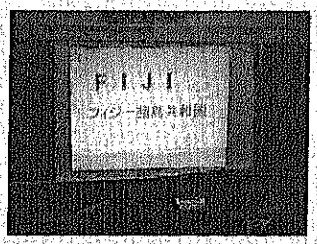
〔1〕授業実践のテーマ・目的

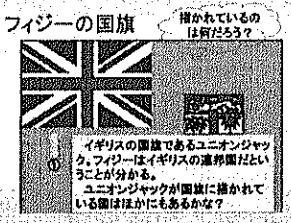
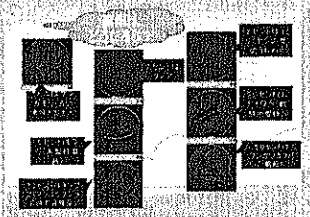
テーマ　「フィジーを知ろう！日本を知ろう！」～フィジーを通して日本について考えよう～

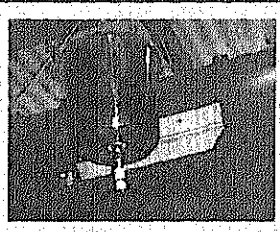
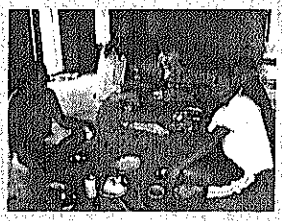
目的
・フィジーの生活や文化を知り、人々がどのような暮らしをしているのかを知る。
・フィジーの子ども達と自分達の生活や考えを比べて共通点・相違点を探し、背景を考える。
・フィジーの生活や文化を知る活動を通して、日本の文化を改めて学ぶとともに自分達の生活を振り返る。

〔2〕授業の構成

<教科名：総合的な学習の時間>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1限目 ②フィジーってどこにあるどんな国？ ③フィジーについて関心を持つとともに世界地理について大まかに理解する。	(1) 担任が夏休みに研修に行った国を予想する。（フィジーから送った、国名が伏せてある絵はがきをヒントに） (2) 正式な国名を知り位置を予想する。 (3) フィジーの場所を地図帳で調べる。 (4) 大陸や海洋名、赤道、日付変更線について知る。	・フィジーから送った絵はがき ・ワークシート ・地図帳 ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・スル(腰巻)、フィジーTシャツ
<児童・生徒の反応>  授業の様子	・フィジーTシャツ、スルという格好で「Bula!」と声をかけて授業を始めたが、「絵はがきに『ブラ』って書いてある！」と気づいた児童もいた。 ・多くの児童が絵はがきを持参しており「ある国で研修していて、その国について2学期に学習する。その国はどこか予想しよう」という内容を書いておいたため、全員が自分で考えてきたり、保護者と相談したりしていた。絵はがきや切手に[FIJI]の記載があったため、多くの児童が正答したが、中には[FIJI]が国名であることに気づかない児童も数名いた。地図帳でフィジーの場所や国旗を確認してきた児童もおり、関心の高さが伺えた。 ・パワーポイントによる写真を見て、「きれいな海！」「いいなあ～」の声がたくさんあがった。赤道近くという場所を知ると「暑そう！」の声も多かった。 ・世界地理は未習のため、大陸や海洋、赤道、日付変更線などについて確認したが、知っている児童とそうでない児童の個人差が大きかった。特に日付変更線に対する関心が高かった。	
①2、3限目 ②フィジーの概要を知る。 ③フィジーの概要について知り、日本と比べて考える。また、フィジー語のあいさつなどを知り、興味を持つ。	(1) 首都、面積、人口、国土、民族などについて調べ、日本と比べる。 (2) 多民族国家であることから公用語があることを知る。 (3) フィジー語のあいさつなど簡単な言葉を知る。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・地図帳 ・フィジー語実用会話集
<児童・生徒の反応>	・地図帳を使用して調べられない部分はパワーポイント資料で確認していった。人々の写真を見て「肌の色が黒い」「髪がアフロヘアーの人とそうでない人がいる」など、自分達との違いや単一民族ではないことにも気づいた。 ・フィジーではフィジー系住民だけでなくインド系住民が同じくらいいることを知り、「何	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	語で話しているのか？」と疑問を持った児童もいた。多民族国家であることで「公用語」の必要性を理解したようであった。 ・フィジー語は簡単で覚えやすいものが多く、親しみを持ったようで、『ブラ！』「モゼ」などのあいさつは学級内で日常的に使われるようになった。	
①４限目 ②フィジーの国旗からわかること ③国旗からフィジーの主な産業について知り、日本の産業と比べてその違いについて考える。	(1) 国旗を見て気づくこと（ユニオンジャック）英連邦について知る。 (2) 国旗を見て気づくこと（ライオン、サトウキビ、ヤシの木、ハト、バナナ）これらが描かれている理由を考える。 (3) フィジーの主な産業について知る。 (4) 日本の主な産業について知る。 (5) 違いについて考える。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート、地図帳 ・サトウキビ畑やヤシの実や葉、バナナの写真とそれらを活用している動画 ・フィジーの国旗 ・フィジーコーラやジュース
<児童・生徒の反応>  パワーポイントによる提示資料	・ ユニオンジャックを見て、「イギリスの国旗と同じ」と気づいた児童がいたので地図帳で確かめた。すると他にもユニオンジャックがついている国旗を見つけ、その理由を予想した。「イギリスの仲間」「イギリスと友達」などの予想がでたが、英連邦国が 50 以上あることを知り、驚いていた。 ・ 国旗に描かれている「サトウキビ」「ヤシの木」「バナナ」については産業と関係があることを予想した児童が多かった。 ・ フィジーの主産業が観光や農業であることは納得したようだが、フィジーでも日本と同様なコーラやジュースが製造されていることには驚いていた。 ・ 日本の産業については５年生での既習事項であるので確認し、フィジーとの大きな相違を知り、それぞれの問題点について話し合った。	
①５限目 ②紙幣やコインからわかること ③紙幣やコインに描かれているものからフィジーの歴史や生活について考える。	(1) 紙幣に描かれている人（エリザベス２世）と描かれている理由を知る。 (2) フィジーの歴史について知る。 (3) コインの裏に描かれているもの（生活の中で使ってきた道具等）を知り、歴史や生活について考える。 (4) 日本の通貨に描かれているものと比べて相違点や共通点を考える。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・フィジーの紙幣、コイン ・日本の紙幣、コイン ・イリ（ヤシの葉のうちわ）
<児童・生徒の反応>  パワーポイントによる提示資料	・エリザベス２世を知っていた児童は一人のみで、あとの児童は「フィジーの偉人」などと予想した。イギリスの女王であることを知ると、なぜ自国の人を描かないのか不思議に思ったようだが、前時で学習した英連邦の関係であることに気づいた児童も多かった。イギリスの植民地になり、独立し、再度英連邦に加盟したフィジーの歴史を知り、社会科で学習中であった他国を植民地化した日本の歴史と重ね合わせて考え、話し合った。 ・フィジーのコイン全てにエリザベス２世が描かれているが、裏面には歴史上また生活の中で重要であるものが描かれていることを知り、生活面に興味・関心をもった。 ・日本の紙幣やコインに描かれているものも確認し、フィジーと同じように歴史上重要な役割を果たした人や日本らしいもの、日本で大切にされているものが描かれていることがわかった。	
①６限目 ②フィジーの人々の生活の様子について知る。 ③フィジーの人々の生活の様子について知り、私たちの暮らしと比べて違いを考える。	(1) フィジーの街の様子（スバ、ナンディ、シンガトカ）の写真を見て、感じたことを話し合う。 (2) フィジーの村の様子（ロマワイ村、アンバサ村）の写真を見て、感じたことを話し合う。 (3) 無人島（離島・ロビンソンクルーソーアイランド）の写真を見て、感じたことを話し合う。 (4) 食べ物について知る。 (5) 私たちの生活との相違や共通点について考える。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・ヤシの葉で編んだ皿 ・貝がら ・ロビンソンクルーソーアイランドのガイドの動画
<児童・生徒の反応>	・街の様子の写真を見て、日本製の自動車がたくさん走っていることやビルや映画館、日本と同様にマクドナルドやケンタッキーフライドチキンがあることから、意外と近代的であることに驚いていた。 ・村では様子が一変し、昔ながらの造りの家（ブレ）や、屋外のトイレや水シャワー	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
 バケツシャワー  村での食事の様子	に大変驚いていた。 ・離島であるロビンソンクルーソーアイランドのブッシュでは、薬になる樹木がたくさんあり、自然の中で病気や怪我を治す知恵があることに感心していた。また、ヤシの木は食用としてだけでなく葉を加工したり、燃料にしたり無駄なく利用している様子がまさにエコであると感激していた。さらに、雨水を利用したバケツシャワーを見て、たった1杯の水で身体が洗えることに感嘆の声が上がった。普段の自分達の生活、特に水の使用について振り返り、反省する児童も多く、インパクトが大きかったことが伺えた。 ・村の「ロボ」という伝統的な料理や床に布を敷いて食事をする様子に興味津々であった。 ・街と村では生活の様子が大きく異なることに驚いていた。また、自分達の生活とフィジーの村の生活を比較し、環境を考えるとフィジーの村の生活がよい。しかし、だからといって今さらバケツシャワーや水シャワーの生活を送るのも難しい、という葛藤を感じる児童も多かった。	
①7限目 ②フィジーの子ども達の生活の様子について知る。 ③フィジーの子ども達の生活の様子について知り、自分達と比べて違いを考える。	(1) レブカ小学校やソヌア小学校の写真や動画を見て気づいたことを話し合う。 (2) セントジョーンズ中高校やポツワレブ高校の写真を見て気づいたことを話し合う。 (3) 子どもたちの放課後の様子や遊びについて知り、自分達と比べて考える。 (4) フィジーの教育制度について知り、日本と比べて考える。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・レブカ小学校の子ども達の踊りや歌、授業の様子の動画 ・きみにもできる国際交流13 フィジー・トンガ・サモア
<児童・生徒の反応> 青年海外協力隊員による授業	・レブカ小学校では、日本人教師が青年海外協力隊員として授業をしていることや、使用している鍵盤ハーモニカが8台ほどしかなくそれも日本からの寄贈品であることに驚いていた。物品は豊かではないが、子ども達が瞳を輝かせ、とても楽しんで学習している様子を食い入るように見ていた。 ・また他の学校の写真や動画を見て、フィジー系・インド系の生徒が混在していることがわかった。さらに、他校にも日本人の青年海外協力隊員がいることから、フィジーに対する日本の支援について知り、驚いていた。 ・放課後は遊ぶだけでなく、家の手伝いや妹弟の面倒をみたりしているフィジーの子ども達と、塾や習い事に忙しい自分達の生活を比べてうらやましく思う児童もおり、一人ひとりが生活の違いについて考えた。 ・開発途上国とはいえ就学率は高く、児童・生徒の学習意欲も旺盛である。統一試験の結果で進学校が決まり、留年もあることを知ると、全員が日本でよかったとホッとしていた。	
①8、9限目 ②アンケートからフィジーの子ども達と自分達の答えを比べて考える。 ③フィジーの子ども達と自分達の答えを比べ、相違やその背景、また「幸せ」とは何か考える。	(1)「大切なもの」「幸せを感じる時」「将来の夢」のアンケートから、フィジーの子ども達と自分達との答えの相違を知り、その背景について考える。 (2) ツバルやカンボジアの子どもの大切なものについて知る。 (3)「幸せ」とは何か考え、話し合う。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・レブカ小学校と自分達のアンケート結果 ・地球温暖化　しずみゆく楽園ツバル　～あなたのたいせつなものはなんですか～ ・あなたのたいせつなものはなんですか　～カンボジアより
<児童・生徒の反応>	・フィジーの子ども達と自分達ではアンケート結果が大きく異なり、大変驚いていた。しかし、その背景について考え、話し合う中でフィジーの子ども達の考えや生活に共感する部分も出てきた。また、「不便な生活＝不幸」ではないことに気づくとともに、「幸せとは何か」「自分は幸せか」についても深く考え、発表し合うことができた。詳細は[3]を参照。	
①10限目 ②レブカ小学校の子どもたちに返事を書く。	(1) レブカ小学校の子ども達が書いたアンケートの答えを理解する。(人に聞いたり、絵を見て予想したりする)	・レブカ小学校の子どもが描いた絵とアンケートの答え、質問

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
③各自、方法を考えて返事を書き、自分が伝えたいことを伝えようとする。	(2) 返事を書く。(調べた英語で書いたり、絵や記号で表したり、伝えたいことを伝える方法を考える)	・英和辞典 ・和英辞典
<児童・生徒の反応>	・アンケートにはフィジーや学校を紹介するような絵も描かれていたが、質問の答えは全て英語で書かれているため、個人では理解することができなかった。担任や英語を習っている友達に内容を聞くことはできても、それに対する返事を書くことが難しかった。児童一人ひとりに伝える方法を考えさせた結果、家族に教えてもらう、電子辞書で調べる、友達に聞く、絵や記号で表す、日本語で押し通すなどさまざまな方法がでた。内容が正確に伝わるとはいえないが、児童一人ひとりの気持ちが伝わればよいと考え、そのまま送付することにした。	
①11、12限目 ②フィジーの人々の生活に根付いている伝統文化(セブセブ)について知る。 ③フィジーの人々の生活に根付いている伝統文化について知り私たちと比べ、未来に伝えていきたい日本の伝統文化について考える。	(1) ヤンゴーナの根を見て何に使うものか予想する。 (2) どんなときに「セブセブ」を行い「カバ」を飲むのかについて知る。 (3)「カバ」がフィジーの人々の生活に根付いている伝統文化であることを知り、自分達の生活と比べる。 (4)「セブセブ」を実際に体験する。	・パワーポイントによるプレゼンテーション資料 ・ワークシート ・タノア、粉末のカバ ・ヤンゴーナの根(カバの原材料) ・ココナツカップ ・スル
<児童・生徒の反応> セブセブ体験	・フィジーから持ち帰った「ヤンゴーナの根」を見せると、「木の根」とわかった児童が多かった。ただ、その使用方法については見せた動画の様子から薬(18人)洗剤(9人)染める(2人)日焼け止め(1人)と予想した。それでも、担任が飲んでいる動画を見た時には大きな驚きの声が上がった。 ・村や学校で何度も行われた「セブセブ」の儀式を動画で見て、時間も手間もかけて毎回やることやさらに儀式としてだけでなく、家庭や仲間と集まって「カバ」を飲むことについても不思議に感じていた。 ・日本でも同じように生活に根付いている伝統的なことがあるか話し合った。「お茶を飲む」「抹茶」「箸を使う」「祭」「習字」「鯉のぼり、ひな祭り、お正月などの伝統行事」「年越しそばやおせちなどの伝統料理」「けん玉や独楽、羽根つき、凧上げなどの伝統的な遊び」などがあがった。そして、フィジーの「セブセブ」のように、日本の伝統的な文化も未来に伝えていきたいという感想を書いた児童が多かった。 ・「セブセブ」の体験を提案すると児童は大喜びしたが、「カバ」を飲みたくないと言った児童も10名ほどいた。飲んだ直後に水飲み場に走る児童もいたが、中には何度も飲みたがる児童もおり、それを見て「飲みたくない」と言っていた児童も次々と飲み始めた。動画をまねて途中から汲み運ぶ役も自分達で行い、「ハイタイ(大盛り)」「ロータイ(小盛り)」などと言いながら楽しんで体験した。	
①13限目 ②フィジーについて総まとめをする。 ③フィジーのDVDを見て学習したことのまとめをする。	(1) フィジーについてのDVDを見てフィジーの学習をふりかえる。 (2) 感じたこと、わかったこと、もっと知りたいことなどを発表し合う。 (3) 他の国についても関心を持つ。	・ワークシート ・DVD(地球ゆうゆう紀行フィジー、BS JAPAN)
<児童・生徒の反応>	今まで学習したフィジーについてのさまざまなことを振り返り、楽しく視聴した。実際には行ったことのない国ではあるが、今回の学習を通して特別な愛着を感じたようであり、いつか行ってみたい国の一つとしてあげる児童が多かった。また、他の国に対しても関心を持ち始めているので、次の単元につなげていきたい。	

＊ハイタイはHigh tide、ロータイはLow tideでそれぞれ満潮、干潮のことであるがカバを飲む際の量の多さを表す。

〔3〕詳細説明

8、9限目　フィジーの子どもたちと自分達の考えを比べ、その違いについて考えよう

事前にレブカ小学校の6年生とクラスの子ども達に同じアンケートを実施し、その答えを集計しておいた。子どもたちが予想した後にパワーポイントによるプレゼンテーションにて発表していった。

（1）大切なもの

＊別所小児童は複数回答あり

フィジー（レブカ小学校6年生24名）	日本（別所小学校6年生31名）
学校の勉強、学ぶこと、教育……19人 テストに合格すること……3人 家の手伝いをすること……2人 よい将来を得ること、学校で作ったもの、英語	家族……23人 命……17人 友達……17人 お金、地球、食料、遊び道具、店など

（2）幸せを感じる時

＊PEMACは青年海外協力隊教師による体育、音楽、図工の授業

フィジー（レブカ小学校6年生24名）	日本（別所小学校6年生31名）
友達といる時、学校の勉強が終わった時、PEMACの授業、テストに合格したとき、出かける時や来訪者がある時、誕生日などのイベントがある時など	友達と遊んでいる時、家族と楽しく過ごしている時、ご飯を食べている時、寝ている時、欲しいものが手に入った時、好きなことをしている時など

（3）将来の夢

フィジー（レブカ小学校6年生24名）	日本（別所小学校6年生31名）
医師、歯科医師……4人 看護師……4人 弁護士、客室乗務員……各2人 PEMACの教師、歌手、オリンピック選手 ウェイトリフティングの選手、パイロット、兵士	未定・考え中……7人 ない……3人 プロ野球選手、保育士……各2人 歌手、モデル、ファッションデザイナー、声優 小説家、芸能人、バスケットボール選手、芸能人、グルメリポーター、カメラマン、科学者など

○これらの結果から出た児童の感想

・フィジーの子ども達は将来の夢に人を助ける仕事を選んでいる人が多かった。
・フィジーの子ども達は将来のことも深く考えていてえらいなあ。
・フィジーの子ども達は勉強や家の手伝いが大切と思っていて、私たちと全然違う。
・親がお金を出して学校に行かせてくれることに感謝しているから、学校に行くことが楽しいし、手伝いもすすんでするのだと思った。

この後、フィジーの人の生活や子ども達の考えなどを振り返り、「幸せ」について考え、話し合った。

・フィジーは開発途上国で不便なこともいっぱいあるけれど、子ども達は学校に行けて勉強もできて幸せだと思っていると思う。ぼくもちゃんと生きていて、楽しいこともいろいろあるから幸せ。
・フィジーの人はみんな笑顔で、楽しそう。悲しい顔をしている人はいなくてみんな幸せだと思う。
・将来の夢や大切なものもすごくちがうけど、フィジーの子ども達は楽しんで生きている感じがして、幸せだと思う。
・今のフィジーの村の暮らしは便利とは言えないけれど、子ども達は幸せをちゃんと感じていると思った。幸せとはちゃんと息をして、ちゃんと感じて、ちゃんと見て、聞いて、生きていることだと思う。

普段、欲しい物を買ってもらえないこと、やりたいことだけをやっていられないことなどに対して不満を持ち、勉強もやりたくないけれど「仕方なく」やっている子どもも多いと感じられる。その子ども達がフィジーの子ども達の「大切なものは勉強・教育」「家の手伝いをすることも大切」というアンケート結果に大きな驚きを感じていた。なぜ、そう思えるのか背景を話し合う中で「学校に行けることは当たり前のことではない」「学校に通えることをありがたく思い、喜んで勉強しているフィジーの子ども達と仕方なくやっている自分達の違い」などに気づき、一人ひとりが自分を振り返るきっかけとなった。コンビニエンスストアもゲー

ム機もなく水シャワーの生活をしているフィジーの子ども達をはじめは「かわいそう」と感じていた子ども達も、次第に「便利で快適な生活」「近代的な生活」だけが「幸せ」とは限らないと感じるようになった。

〔4〕成果と課題

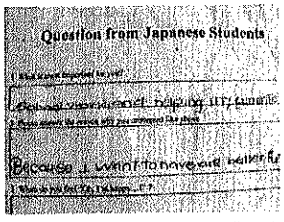
子ども達が普段の生活でよく耳にする欧米諸国ではなく、多くの子が知らなかった「フィジー」というオセアニアの島国の生活や文化を知ることで、世界にはさまざまな国があり、さまざまな暮らしをしていること、自分達にとっての当たり前が世界の中での当たり前でないことを知ることができた。さらに、青年海外協力隊などの支援を日本が行っており、つながりがあることも初めて知ったことであった。また毎時間日本と比較することで、普段意識していない日本の良さについても改めて考えることができた。自分達の生活や考えと重ね合わせて考えられるよう、ワークシートを使って書く活動を取り入れたことで自分自身のこととしてとらえられたのではないかと思う。

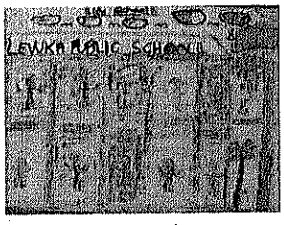
今後は、「フィジー」を学んだことをきっかけに世界の他の国、特に開発途上国について学び、調べる活動につなげていく計画である。「新ワークショップ版　世界がもし100人の村だったら」（開発教育教会）、「いのちの水」（ユニセフ）、「地球生活体験学習教材」（青年海外協力協会）などの資料を使って、開発途上国の状況について学ぶとともに、自分達にできることを考え、行動させていきたい。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

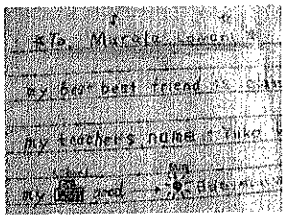
・「きみにもできる国際交流13　フィジー・トンガ・サモア」、橋本和也、偕成社、2000
・「地球の歩き方　フィジー　サモア　トンガ」 地球の歩き方編集室、ダイヤモンド・ビッグ社、2008
・「フィジー語実用会話集」 日本語（ローマ字）・英語対照、岩佐 嘉親、泰流社、1990
・「フィジーの魔法」 飯田裕子・山口由美、千早書房、2007
・「地球温暖化　しずみゆく楽園ツバル　～あなたのたいせつなものはなんですか～」 山本敏晴、小学館、2008
・「あなたのたいせつなものはなんですか　～カンボジアより」 山本敏晴、小学館、2005
・テレビ番組「地球ゆうゆう紀行フィジー」BS JAPAN、2008年7月24・31日放映
・HP　フィジー大使館　http://www.fijiembassy.jp/jp/
・HP　フィジー政府観光局　http://www.bulafiji-jp.com/

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）



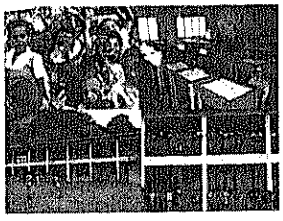


10限目　レブカ小児童のアンケート用紙



別所小児童の返事

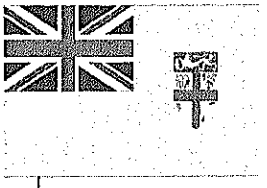
6限目　生活の様子



7限目　子ども達の生活

8、9限目　幸せとは？

11、12限目　伝統文化



青年海外協力隊員に聞こう

Fiji Islands

羽生 英雄
東京都立清瀬高等学校

●担当教科：地理歴史（世界史）
●実践教科：東京都設定教科「奉仕」
●時 間 数：4時間
●対象生徒：高校1年生
●対象人数：240名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

国際交流・協力分野のさまざまな奉仕活動のひとつとして青年海外協力隊の活動を取り上げる。

①青年海外協力隊員が派遣される発展途上国について、生活や文化、価値観、人生観などの多様性から学び、途上国に対する支援について理解を深める。

②青年海外協力隊は、どのような人が、どのような活動をしているかについて知り、自分の将来像の中で、奉仕活動や国際協力を捉えさせる契機とする。

全4時間のうち、1・4時限は私が担当し、2・3時限についてはJICA、JOCA（青年海外協力協会）の「国際協力出前講座」等の講師派遣制度を利用した。なお、派遣先のフィジーに関連する事項は1時限で展開した。

〔2〕授業の構成

<教科名：東京都設定教科「奉仕」>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限 ②「フィジーに行って、見て、聞いて、触れて、感じた事」 ③途上国と国際協力について生徒の関心を高め、出前講座の導入部を構成する。	6クラス240人を集め実施 (1) フィジーについて、知っていることを発問する。 (2) 私（授業者）自身が現地で見聞き感じたことをまとめたDVD視聴を通じ、 ・フィジーの位置と歴史、生活・文化について知る。 ・フィジーの学校生活、高校生のスポーツ活動について知る。 ・現地の小学校で支援活動を行っている青年海外協力隊員の活動とインタビューから、青年海外協力隊について知る。 (3) 次回の授業の意図と流れを紹介	地図帳 自主作成DVD（4チャプター22分で構成した動画と静止画、民族音楽のBGMと解説用テロップ付）の内容 ・フィジーの位置と景観 ・生活・文化 （マーケットと野菜・食材） （伝統的なロボ料理） ・学校生活と高校生のラグビー 全国大会 ・青年海外協力隊員の活動風景とインタビュー JICAパンフレット
<児童・生徒の反応> 生徒のコメントから	・フィジーは日本人が多く訪れる観光地であることは知っていたが、結構車も多く、発展していることがわかった。 ・黒人はアフリカだけだと思っていた。 ・たくさんの種類の野菜があったが、これらがほとんどフィジーにはなかったと聞いて驚いたが、日本の野菜も多くは外国原生種がほとんどであると知ってもっと驚いた。 ・フィジーの料理方法はダイナミックで面白い。おいしそうだった。 ・インド人がたくさんいて、カレー料理もたくさんあると知って驚いた。 ・小学生の踊りがかわいかった。 ・どうしてラグビーが盛んなのか。 ・試合に負けた高校生の姿が、私たちと同じだったと先生が言っていたが、ビデオを見ていて本当にそう思った。 ・青年海外協力隊の人は、本当に一人きりで生活しているのか、と思った。	